

# 2 特定非営利活動法人wiz 岩手県 大船渡市、盛岡市 若者に示す「岩手ならできる」という指標

## Point ▶ 取組のポイント

### [ヒト]

若者が岩手で活動できるには

### [着眼点]

行動のための仕組みづくり

### [連携・協働]

アクションを助けるための3つの活動

### [持続性]

より若い世代の指標となる

## Area ▶ エリア

岩手県大船渡市/盛岡市

## Player ▶ 取組主体

特定非営利活動法人wiz

## Project ▶ 取組の内容

インターンシップの実施、クラウドファンディングの運営など

## Profile ▶ 人物紹介

代表理事/CEO

中野 圭

(なかの けい)

岩手県大船渡市出身。漁師家系の16代目。大学卒業後、会社員を経て森林保全を目的とした会社を起業した後、震災に遭う。Uターンしてwizで活動しながら、漁師を継いだ。

理事/COO

黒沢 惟人

(くろさわ ゆうと)

岩手県奥州市出身。大学卒業後、SEとして働く。震災後、NPO法人ETICの右腕プログラムを通じてUターン。復興事業の立ち上げ・運営などを経て、wiz専任になった。

岩手で新しい何かに挑戦しよう!



① wizのメンバー ② クラウドファンディングのサイト「いしわり」 ③ インターンシップ活動の様子



### [ヒト]

## 若者が岩手で活動できるには

特定非営利活動法人wiz(以下、wiz)には「岩手な人」の定義がある。「岩手出身者」「岩手に住んだことがある」「岩手が好きだと自信を持って言える」。そのどれかに当てはまれば、その人は立派な「岩手な人」だ。

岩手県の学生は震災の前から、高校や大学を卒業すると進学や就職のために県外へ転出する者が多かった。wizを立ち上げた若き「岩手な人」、中野圭さんと黒沢惟人さんも、東京への転出組だ。ふたりはともに震災後、復興支

援のために故郷へUターンした。

同じように震災後、岩手へ戻ることを考える若者は確実に増えた。wizは若者の岩手での自己実現を目指し、岩手で挑戦したい若者たちを支援するため、現在も活動を続けている。

代表理事の中野さんは、大船渡市の越喜来湾で代々続く漁師家系の16代目。中野さんが上京したのは、大学入学の時だった。卒業後は一般企業へ就職し、2011年1月に国産建築用木材の流通促進にかかわる会社を起業した。

その直後の3月11日、東京で震災に遭遇する。12日未明になっても両親と連絡が取れず、日が昇ると同郷の6人と一緒にミニバンで岩手を目指した。途中の光景に涙を流しながらたどり着くと、

岩手で活動する若者をつなぐネットワークの構築と、若者が岩手に関わる選択肢を提供する目的で設立された特定非営利活動法人wiz。  
インターンシップのコーディネート、クラウドファンディング、U・Iターン者の支援などの活動で、アクションすることを岩手のスタンダードにする。

Area ▶ エリア

岩手県大船渡市/盛岡市



両親は無事だったが、故郷は津波に飲まれていた。中野さんはしばらく、東京と大船渡を行き来し、復興支援をする生活を続けた。「地元に戻ってできることのほうが多い」と、Uターンしたのは2011年9月のことだ。

奥州市出身の黒沢さんは、岩手県の大学を卒業した後に上京した。在学中、このまま岩手にいてよいのか迷うようになり、将来的なUターンを前提にして東京へ出た。大手IT企業でシステム・エンジニアとして働いていた時、震災が起こった。すぐに岩手に入り、ボランティア活動をするうちに、復興には長期的な仕組みづくりと運営が重要だと感じるようになった。黒沢さんは、退職して岩手にUターンする決意を固める。

NPO法人ETICの右腕プログラムを通じてUターンした後、岩手県沿岸部の復興事業の立ち上げなどを進めながら、同世代のUターン者との交流を深めていった。中野さんと出会ったのも、このときのことだ。

**[着眼点]**

# 行動のための 仕組みづくり

2014年4月、中野さんと黒沢さんは

3人の仲間とともに、5人でwizを立ち上げた。5人は全員、震災後に県外から戻ったUターン者だった。

自分たちは都会にあこがれ、「岩手はつまらない」という思い込みを持つ若者だったと中野さんは振り返る。しかし震災は、人生と価値観を変えるのに十分な出来事だった。「変えた」のではなく、自分でも気づかなかった故郷への想いが「呼び覚まされた」というべきだ。

復興という答えのない問いに挑む同

志が、岩手で出会ったのは運命だと思えた。多くの若者がつながりを持ち、ともに行動を起こすことで岩手を盛り上げたい。その方法を示し、きっかけを提供する仕組みをつくるために活動を始めた。

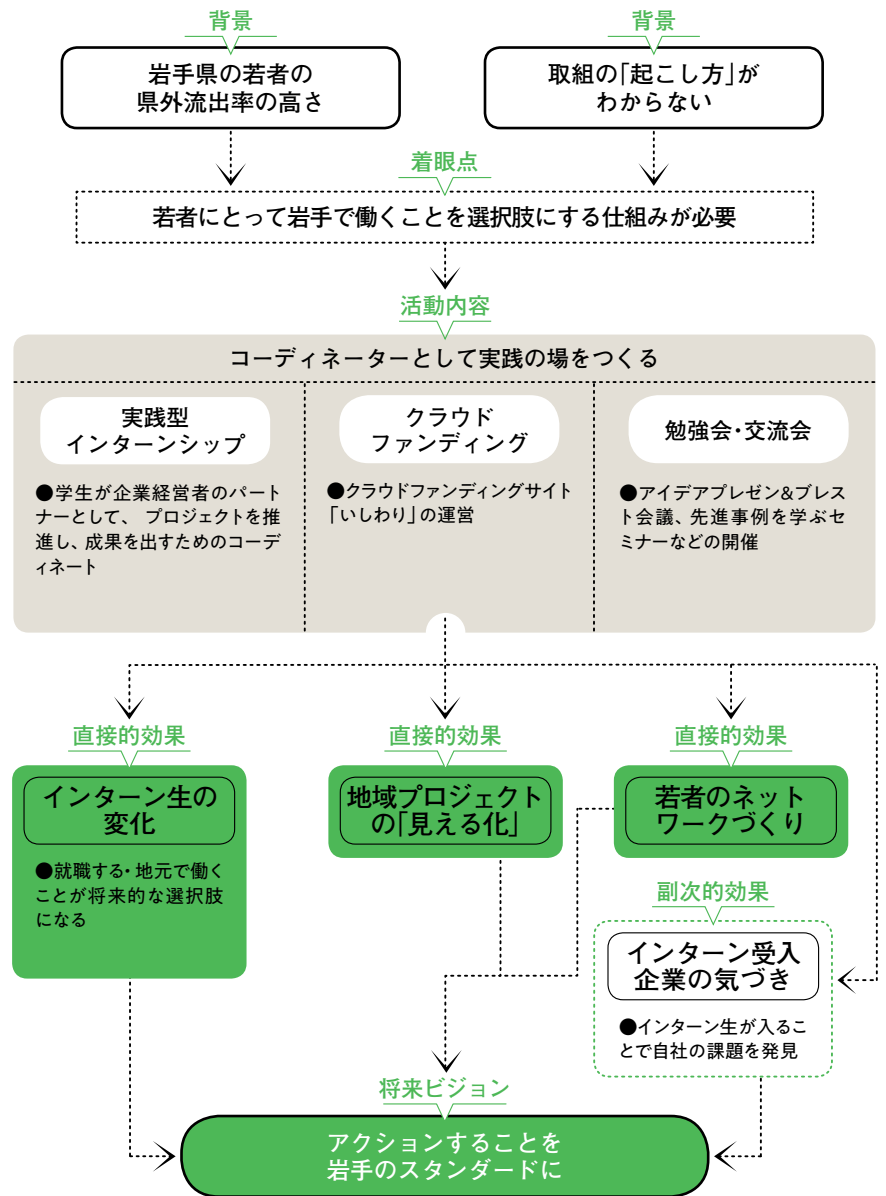
中野さんは現在、wizの代表理事を務めながら家業の漁師を継ぎ、NPO法人いわて連携復興センターの理事としても活動中だ。

黒沢さんはwizの専任理事となり、

**CHANGE MAP**

チェンジマップ

## wizの岩手を盛り上げる事業モデル





①②③ 「IWATE実践型インターンシップ」の様子 ④ webサイトで公開されている「いしわり」のプロジェクト



多岐に渡る活動を牽引している。wizのおもな活動は3つ、実践型インターンシップのコーディネートと、岩手に特化したクラウドファンディングの運営、地域おこし協力隊となるUターン者の支援だ。

**【連携・協働】**

# アクションを ア 助けるための 3つの活動

wizの活動のうち、「IWATE実践型インターンシップ」は、学生には岩手をフィールドに成長する機会を、企業には事業推進や課題解決の機会を提供することが目的だ。多くの学生は、岩手の企業をよく知らないまま「やりたいことができない」と、岩手を離れてしまう。地域

が抱える社会課題を解決したいという想いを持ち、奮起し続ける企業は岩手に数多く存在する。そういう企業・経営者と、学生をコーディネートして、「岩手ではできない」を「岩手ならできる」へ、若者の意識を変えていくことが狙いだ。

インターンシップといえば、数日間の職場体験や採用活動の一環として行われるイメージが強いが、wizがコーディネートするインターンシップは違う。若者（特に大学生）が企業経営者のパートナーとして、企業の新規事業や課題解決方法をともに考え行動し、成果を出すためのプロジェクトだ。

「企業のなかで学生が、経営者の思いを汲みながら、意思決定も含めてがむしゃらに行動することが重要」と、黒沢さん。期間は4～8週間、成果が求められる現場にうまくマッチングさせるため、事前に面談を経て配属先が決まる。

2017年夏には、26名の大学生と、県内の7市町（紫波町、花巻市、矢巾町、釜石市、陸前高田市、大船渡市、住田町）の民間企業など14社との間で、インターンシップをコーディネートした。

ふたつめの活動、岩手特化型のクラウドファンディングは、「いしわり」と名づけられている。盛岡市内にある国の天然記念物、石割桜いしわりざくらに由来した名前だ。

苦境を乗り越え、力強く生きる。それを喜んでくれる人の気持ちに、精一杯応える。そんな石割桜と人々のような関係を生み出すため、クラウドファンディング「いしわり」は始まった。「いしわり」では、岩手をよりよくしたいと考える個人や法人などの「実行者」が、アイデアをプロジェクトとして発信し、それに共感する「協力者」から資金を募る。プロジェクトが目標金額に達して成立した場合、協力者はリターン（お返し）を



Data ▶ 本事例の問合せ先

wiz  
所在地：岩手県大船渡市、盛岡市  
HP: <http://npowiz.org>  
主な事業内容：インターンシップの実施/  
クラウドファンディング/地域おこし協力隊

Area ▶ エリア

岩手県大船渡市/盛岡市



受け取れる。2018年1月までに30件以上のプロジェクトをwebサイトで公開し、実行者の多くが目標金額を達成した。

**[持続性]**

# より若い世代の指標となる

前述した「IWATE実践型インターンシップ」では、期間の最後に成果報告会が開かれる。学生、受け入れ企業双方が、インターンシップの成果を発表する場だ。

学生たちの感想は、「成長を実感できたけれども、ここからがスタートです」や、「経営者と新規事業を始められたことはうれしい。この経験は生涯の宝となります」など。企業からは「学生と本気で向き合うことで、得たものが多い。モチベーションの高さや、失敗から真摯に学び改善していく姿は、忘れかけていたもの。実は私たちのほうが刺激を受けていました」という意見もあった。

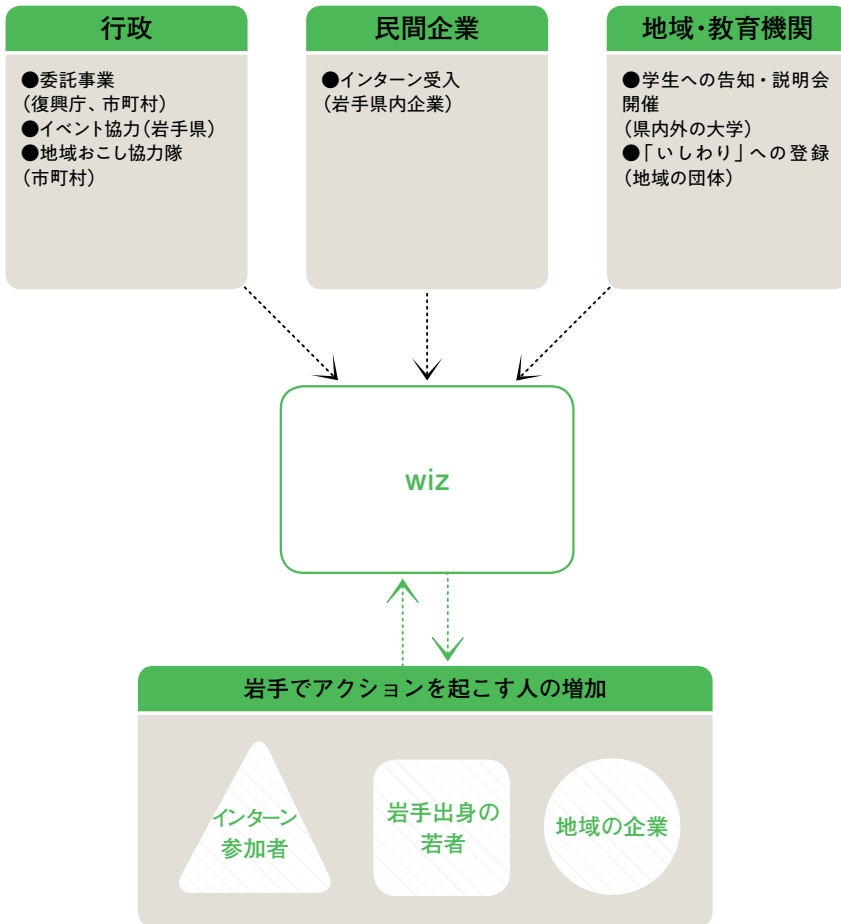
「実際、学生の成長には驚かされます。インターンを通じて顔つき、話し方、すべてが変わっていく。表情から自信を得たのがわかる。何より学生たちが事業の芽、土台をつくりあげたことがうれしい。プロジェクト終了後も、継続的に岩手と関わってもらいたいです」と、黒沢さんは話している。

クラウドファンディング「いしわり」からも、さまざまな成果が生まれている。

### COLLECTIVE IMPACT

コレクティブ・インパクト

### wizの連携・協働モデル



例えば、岩泉町の小本川漁業協同組合は、台風で壊滅的な被害を受けた岩泉の清流に「あゆの稚魚を放流したい」というプロジェクトを発信した。

あゆの稚魚放流にかかる費用は600万円を見込み、そのうち9割を400人ほどの組合員が負担する。残りの1割60万円を「いしわり」で調達したい、というものだった。岩手出身でAKB48のメンバーとして活躍する佐藤七海さんもこのプロジェクトの応援者となり、県内外69名の賛同者から80万5,000円を集めることができた。

千葉県出身で、縫製の盛んな岩手県久慈地域に移住した香取正博さんは「みんなできJTを着よう!」というプロジェクトを発信。こちらは目標金額100万円

に対して、144万7,000円が集まった。

黒沢さんは言う。「自分たちよりも若い世代に対して、指標のひとつとなるように、アクションを起こし続ける必要があります。続けていくことこそ、大事だと考えています」

設立から3年以上が経過し、インターン事業の対象となるエリアの拡大も視野に入ってきた。当初は補助金により運営していたが、現在は自治体からの委託事業が主たる財源となっている。多角的に事業を行うことでひとつの案件への依存度を下げるなど、継続的に事業を行っていくための工夫を続けている。

若者がつながって、岩手を盛り上げる。そのためのあらゆる機会をこれからも、wizのメンバーはつくり続ける。